

6 スポーツボランティア

6-1 | スポーツボランティアの実施率

スポーツボランティアとは、報酬を目的としないで、自分の労力・技術・時間などを提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動を意味している。

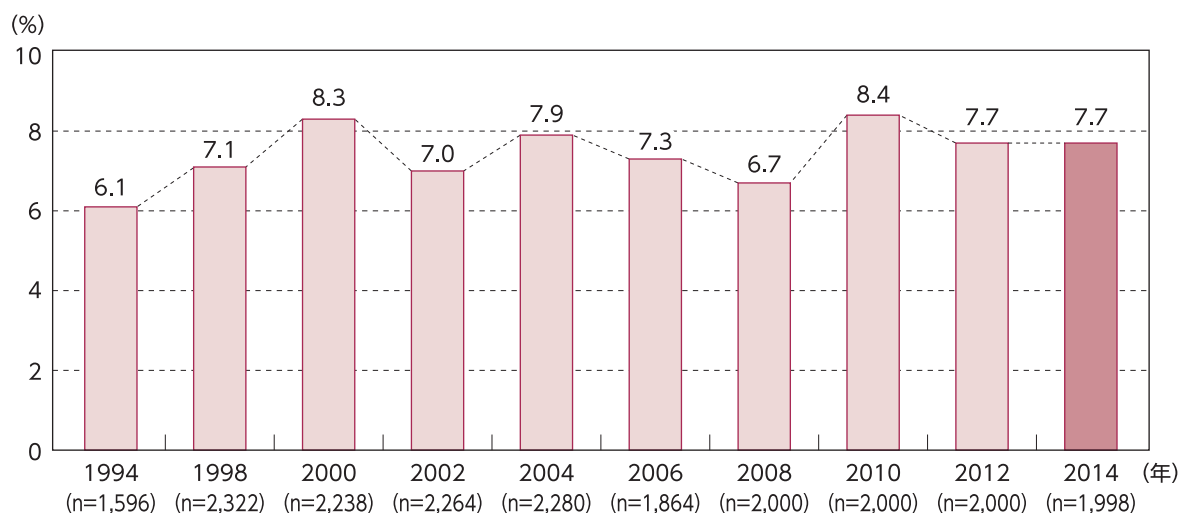
過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者は全体の7.7%で、2012年調査と同じ値であった(図6-1)。1994年からの経年でみると、2010年に8.4%で最高値となったが、ほぼ横ばいの状況にある。今回の結果から、過去1年間のわが国のスポーツボランティア人口は799万人と推計された。

スポーツボランティア実施率を性別、年代別、運動・スポーツ実施レベル別にみた(図6-2)。性別にみると、スポーツボランティア実施率は男性が9.6%、女性が5.8%であった。男性の実施率が女性より高い傾向は過去の調査と同様である。

年代別にみると、20歳代5.9%、30歳代8.1%、40歳代13.6%、50歳代7.5%、60歳代4.4%、70歳以上5.7%と、40歳代の実施率が飛び抜けて高い。この傾向は過去の調査と同様である。

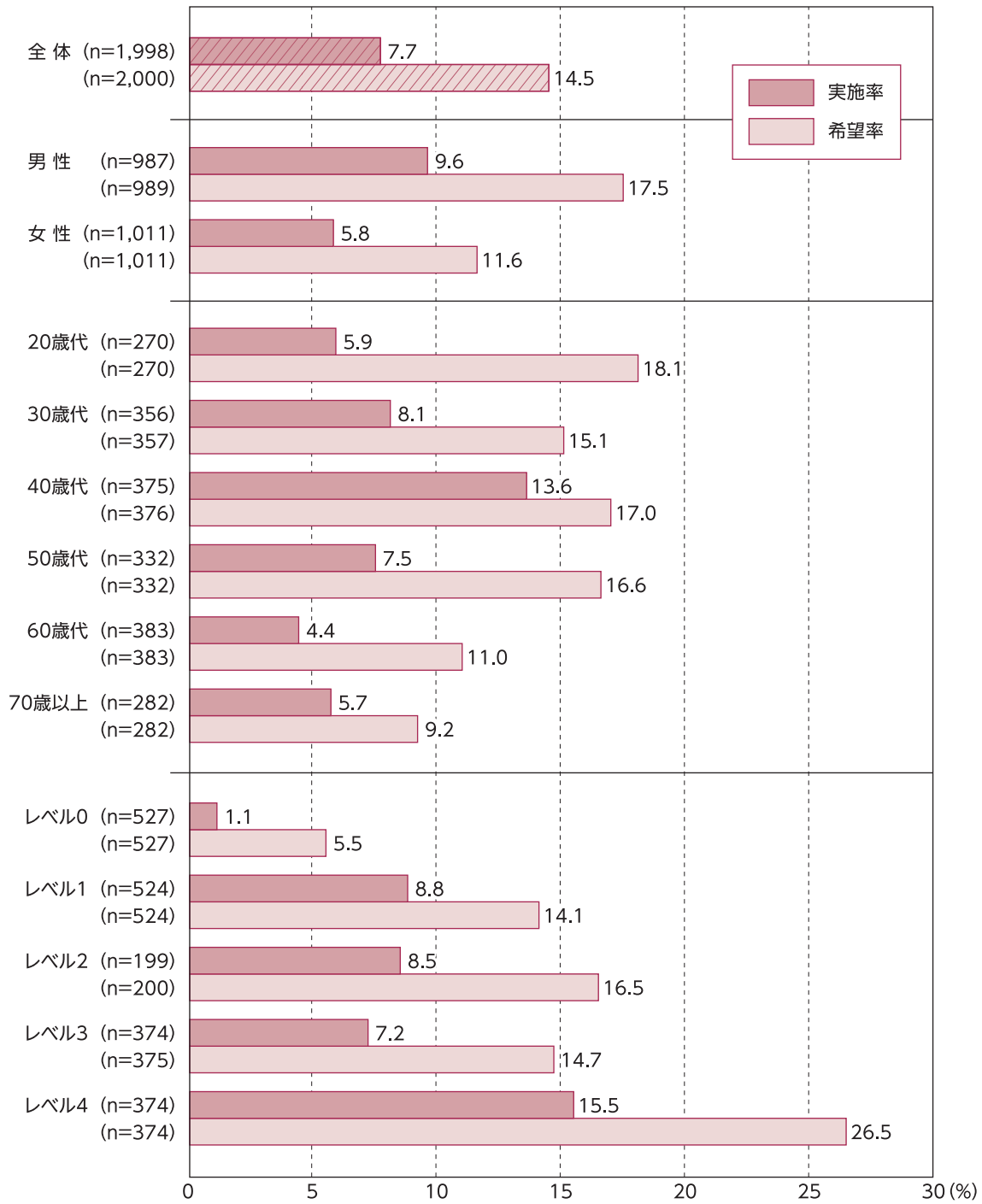
運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル0」1.1%、「レベル1」8.8%、「レベル2」8.5%、「レベル3」7.2%、「レベル4」15.5%と、「レベル0」の実施率が低く、「レベル4」の実施率が高くなっている。

次に性・年代別にみると、男性は20歳代8.8%、30歳代8.7%、40歳代15.3%、50歳代9.1%、60歳代6.4%、70歳以上8.7%であり、女性は20歳代3.0%、30歳代7.5%、40歳代11.9%、50歳代6.0%、60歳代2.6%、70歳以上3.2%であった(図6-3)。男女ともに40歳代の実施率が最も高く、60歳代の実施率が最も低い。



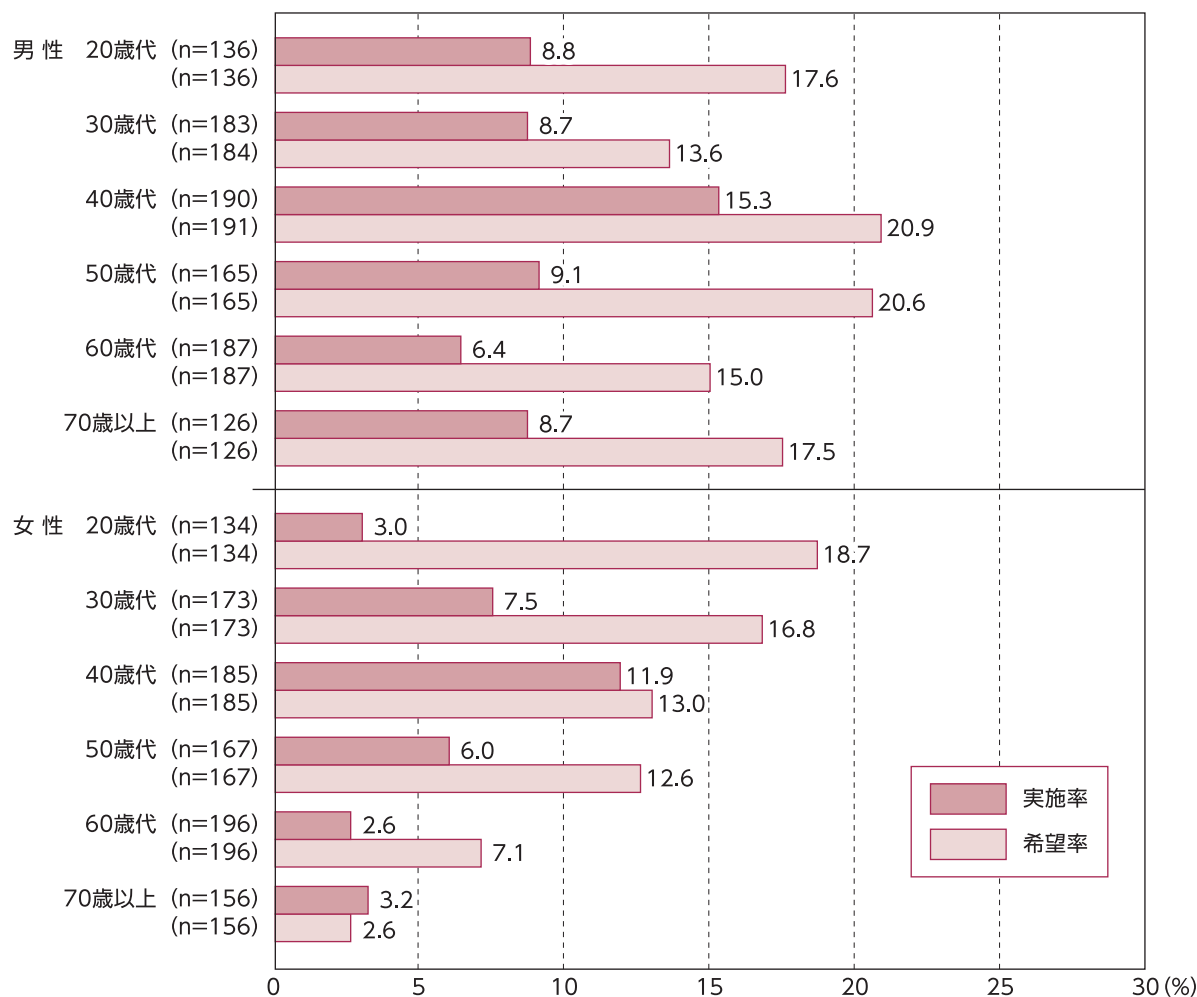
【図6-1】スポーツボランティア実施率の年次推移

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014



【図6-2】 スポーツボランティアの実施率および実施希望率(全体・性別・年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014



【図6-3】スポーツボランティアの実施率および実施希望率(性別×年代別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

6-2 | スポーツボランティアの実施希望率

今後のスポーツボランティアの実施希望をたずねたところ、「行いたい」(「ぜひ行いたい」+「できれば行いたい」)と回答した者の割合(実施希望率)は、14.5%(「ぜひ行いたい」2.7%+「できれば行いたい」11.9%)であり、2012年調査と比較して0.3ポイント減少した(図6-4)。

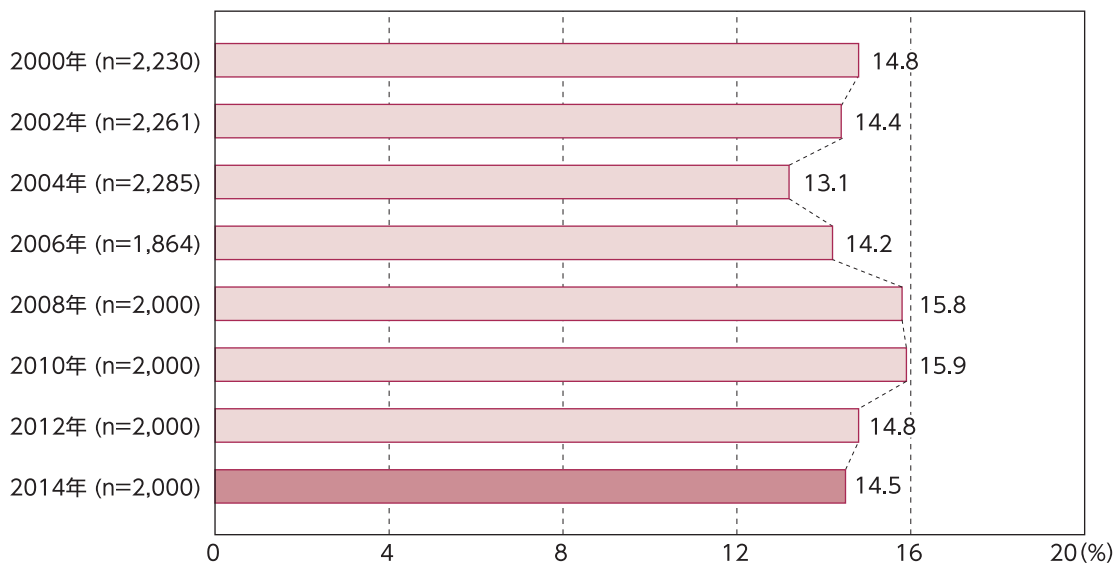
スポーツボランティア実施率と実施希望率を性別、年代別、運動・スポーツ実施レベル別にみた(図6-2、図6-3)。

全体では、実施率7.7%に対して実施希望率14.5%と、潜在需要の割合(実施希望率-実施率)は6.8ポイントとなり、2012年調査の潜在需要の割合7.1ポイント(実施希望率14.8%-実施率7.7%)と比較して微減となった。

性別にみると、実施希望率は男性17.5%、女性11.6%であり、男性の割合の方が高い。実施率と比較すると、男性は7.9ポイント、女性は5.8ポイント実施希望率が上回っていた。

年代別にみると、実施希望率は20歳代18.1%、30歳代15.1%、40歳代17.0%、50歳代16.6%、60歳代11.0%、70歳以上9.2%であった。潜在需要の割合が最も高いのは、20歳代の12.2ポイント、次いで50歳代の9.1ポイントであった。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、実施希望率は「レベル0」5.5%、「レベル1」14.1%、「レベル2」16.5%、「レベル3」14.7%、「レベル4」26.5%であった。潜在需要の割合が最も高いのは、「レベル4」の11.0ポイントであった。



【図6-4】スポーツボランティア実施希望率の年次推移

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

6-3 | スポーツボランティアの内容

スポーツボランティアの実施内容について、『日常的な活動』『地域のスポーツイベント』『全国・国際的なスポーツイベント』に大別し、具体的な活動の内容、年間の実施回数についてたずねた(表6-1)。

具体的な活動内容は、『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」が53.2%と最も多く、次いで『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」

34.4%、「スポーツの指導」31.2%、「スポーツの審判」27.9%となっている。これらの活動内容に対する回答率の合計は188.3%であり、1人あたり平均1.9種類のボランティア活動を実施していると推計された。

年間の活動回数は、『日常的な活動』の「スポーツの指導」が年間平均36.7回と最も多く、次いで『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」35.0回、「スポーツ施設の管理の手伝い」19.2回となった。

【表6-1】スポーツボランティアの実施・希望内容(複数回答)

スポーツボランティアの内容		実施率 (%) n=154	実施回数(回/年) n=154	実施希望率 (%) n=290	実施希望率-実施率
日常的な活動	スポーツの指導	31.2	36.7	25.5	-5.7
	スポーツの審判	27.9	10.7	16.2	-11.7
	団体・クラブの運営や世話	34.4	35.0	27.6	-6.8
	スポーツ施設の管理の手伝い	9.1	19.2	17.2	8.1
地域のスポーツイベント	スポーツの審判	22.1	5.6	10.0	-12.1
	大会・イベントの運営や世話	53.2	4.5	51.0	-2.2
全国・国際的なスポーツイベント	スポーツの審判	2.6	2.8	3.8	1.2
	大会・イベントの運営や世話	7.8	1.8	21.0	13.2

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

6-4 | スポーツボランティア 実施希望内容

今後、スポーツボランティアを「行いたい」（「ぜひ行いたい」+「できれば行いたい」）と回答した者が希望する活動内容を示した（表6-2）。

希望する活動内容について、「地域のスポーツイベントの運営や世話」が51.0%と最も高く、半数以上が希望している。次いで「日常的な団体・クラブの運営や世話」27.6%、「日常的なスポーツの指導」25.5%、「全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話」21.0%、「日常的なスポーツ施設の管理の手伝い」17.2%の順となっている。これらの活動内容に対する回答率の合計は172.3%

であり、1人あたり平均1.7種類のボランティア活動の実施を希望している。

性別にみると、「地域のスポーツイベントの運営や世話」が男性45.7%、女性59.0%と男女ともに最も割合が高い。次いで男性では「日常的なスポーツの指導」38.2%、「日常的な団体・クラブの運営や世話」28.3%、「日常的なスポーツの審判」24.3%の順となった。女性では「日常的な団体・クラブの運営や世話」と「全国・国際的なイベントの運営や世話」が26.5%で同率、「日常的なスポーツ施設の管理の手伝い」12.0%の順となった。男性はスポーツの指導、女性は規模を問わずイベントの運営や世話を希望する割合が高い。

【表6-2】 今後希望するスポーツボランティアの内容(全体・性別：複数回答)

(%)

スポーツボランティアの内容	全 体 (n=290)		男 性 (n=173)		女 性 (n=117)	
地域のスポーツイベントの運営や世話	1位	51.0	1位	45.7	1位	59.0
日常的な団体・クラブの運営や世話	2位	27.6	3位	28.3	2位	26.5
日常的なスポーツの指導	3位	25.5	2位	38.2		6.8
全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話	4位	21.0		17.3	2位	26.5
日常的なスポーツ施設の管理の手伝い		17.2		20.8	4位	12.0
日常的なスポーツの審判		16.2	4位	24.3		4.3
地域のスポーツイベントでの審判		10.0		15.0		2.6
スポーツ情報誌やホームページ作成の手伝い		7.9		8.1		7.7
全国・国際的なスポーツイベントでの審判		3.8		5.8		0.9
通訳		0.3		0.6		0.0

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

COMMENTS

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2014

- スポーツにはずっとかかわっていきたいと思っている。自分自身もそうだが、子供を通して経験出来たこともたくさんあった。みるのもするのも元気をくれる。身体が動くうちは何らか出来るスポーツを行っていきたい。(女性 49歳 専門的・技術的職業)
- 子供がスポーツ少年団のバスケットボールのチームに入っています。コーチや車出しをしています。スポーツは礼儀や仲間意識などさまざまなものを培ってくれる素晴らしいものだと思います。(男性 41歳 事務的職業)
- 健康であることに感謝し、出来ることをやれば良いと思う。子供がスポーツをしていた時は、送り迎えをしながら他校のご父兄との懇談も楽しかったことを思い出します。人と人とのつながりは大切で学ぶこともあり、応援も楽しかったです。(女性 66歳 専業主婦)